

てるびっと

No. 12
2006.3

京都府海外研修KYOのあけぼの会



海外研修KYOのあけぼの会
会長 田中 田鶴子

ごあいさつ

春光うらかな季節を迎えました。
会員の皆様におかれましてはお元気に活躍のことと存じます。
日頃は、当会の活動にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。
さて、2005年度、海外研修KYOのあけぼの会では、日本初の水力発電所である京都蹴上水力発電所のルーツをたどる、米国アスペン市視察研修を実施いたしました。この研修では、発電所の変遷推移について学ぶことができ、また市民生活に欠かせない「水」について学ぶことができました。

2006年度は、世界遺産にふれる熊野古道への研修を計画しております。
研修会を通じて、女性関係団体のネットワークから数多くのことを学ぶとともに、国際的視野を有した女性リーダーの育成と資質の向上を目指します。是非とも多くの皆様にご参加いただけることを期待しております。
また、今年は京都府女性総合センターが10周年を迎え、様々な記念事業を計画しております。男女の人権が等しく尊重され女性のエンパワーメントが図れる地域社会づくりにさらに貢献し、男女共同参画社会の実現を目指していきたいと考えております。
会員の皆様におかれましては引き続き当会の活動に対しまして、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2005年度 総会及び研修会

● 日時：平成17年4月27日(水) 午後1:30～3:30 ● 場所：京都府国際センター研修室

総会

- | | |
|---------|-----------------|
| 1. 開会 | 2. 会長あいさつ |
| 3. 来賓紹介 | 4. 来賓祝辞 |
| 5. 議長選出 | |
| 6. 議事 | ①2004年度 事業報告 |
| | ②2004年度 会計報告 |
| | ③2004年度 会計監査報告 |
| | ④2005年度 事業案(審議) |
| | ⑤2005年度 予算案(審議) |
| | ⑥その他(アスペン行きの特) |

研修会

テーマ 「国際貢献活動のはなしあれこれ」
講師 日本国際民間協会(NICCO) 折居徳正さん

..... プロフィール

IT関連企業勤務を経て2002年よりNICCOに勤務。アフガニスタン事務所長として医学、教育支援にたずさわられた他、2003年12月イランバム地震では現地にて活動を総括する。
東京都出身、国際キリスト教大学卒

..... 内 容

各々の活動において、ビジョン(展望)、ミッション(使命)、ポリシー(方針)の詳細な明確さを常に重要視する。



表題「てるびつた」は、前京都府知事荒巻禎様の直筆で、インドネシア語(京都府友好国「あけぼの」の意味です。
京都府に息づく豊かな自然の美しさ、「花」しだれ桜、さが菊、「木」北山杉、「鳥」オオミズナギドリ。を戸塚シンシ刺しゅうで表現したものを表紙絵としておきます。

秋の研修会(相楽へ「講演会と体験研修」)

平成17年11月11日(木)
参加人数 24名

今年度の研修会は、京都南部方面を計画いたしました。特にお茶の里、和束町での「茶香服」と云う競技は、初体験でもあり、真剣な中にも楽しい意義深い1日でありました。

フラワーセンター寄せ植え体験



薬膳レストランあわさいに於いて

講演 NPO法人けいはんな薬膳研究所 井原浩二氏
旬の食物をバランスよく摂ることで自然治癒力を高め、病気になる体質づくりについて

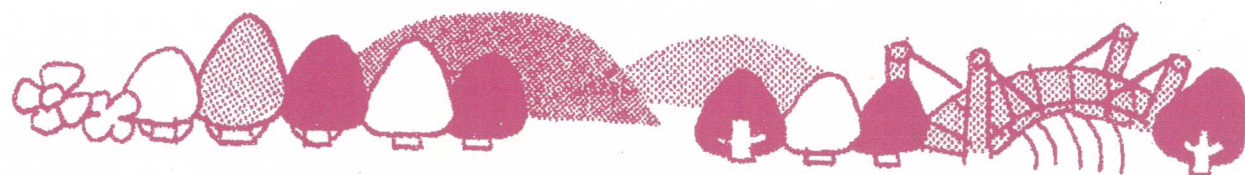


京都府青少年山の家(グリーンティ和束)

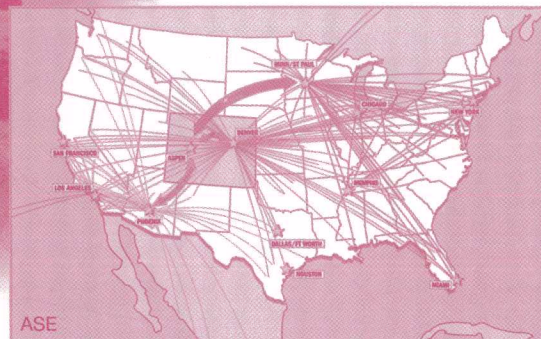
茶香服競技体験(賞品もありました)
茶香服について
茶香服とは茶の銘柄を当てる競技(遊び)です。
「ちゃかぶき」または「ちゃかふく」と読みます。
別名「闘茶会」とも言います。



京都の歴史・水力発電の源をたずねて ～アスペンとの架け橋～



海外研修KYOのあけぼの会
2005年6月7日～13日
(第3回自主研修)



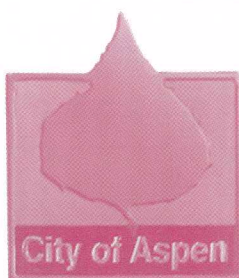
1. アスペンの地理的位置

この旅は、110余年の時空を超えて甦った感動感激の旅でした。

京都は日本で最初に水力発電を行い、市街電車を開通させた街です。1885年(明治18年)、京都の産業発展のために、琵琶湖から疏水を引く工事が始まりました。産業の動力源としての水利事業を視察するために、1888年(明治21年)に京都の田辺朔朗・高木文平がアメリカへ派遣されました。艱難辛苦の旅の末、米国コロラド州アスペンで開発されたばかりの水力発電の技術を学ぶ機会を得たのです。この二人の持ち帰った水力発電の技術が、京都蹴上発電所の誕生となり、さらにその電力を使って日本初の市街電車を開通させたのです。その歴史的事実を学び、田辺・高木両氏の足跡と水力発電の開発者デブロー氏との出会いを辿るのが今回の旅の目的でした。

現在のアスペンは、冬はアメリカ第一のスキー場として、夏は文化的芸術的な催しで世界に名を轟かせています。

私たちが訪れた6月のアスペンは、満開のライラックが周辺の木々の緑に美しく映え、落ち着いた街並みと共に心の安らぎを与えてくれました。



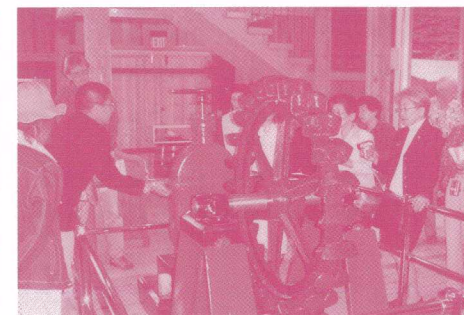
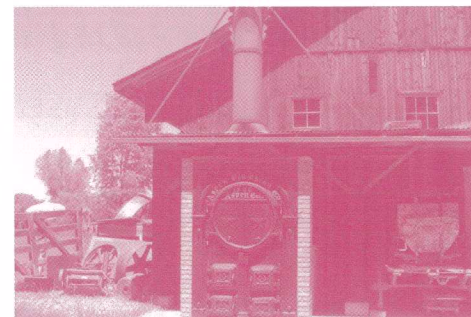
2. 水力発電博物館

以前には見られなかった資料館がありました。京都からの発信により、埋もれかけた歴史の発掘や京都との関係が見直され、調査・整理されて展示されていました。4000メートル級の山並みを背景に、豊かな自然環境の中に水力発電博物館は建っています。

1880年代からの水力発電所の建物や、後方の山から水を引き入れた29kmもの木造の用水路などのミニチュアの模型が当時を彷彿させるように展示され、落水に用いたペルトン式の水車も置かれています。銀鉱山の町として拓かれたアスペンは、採掘動力として火力から水力に切り替えたのです。

3. Aspen Art Museum

ここは旧水力発電所跡です。1888年12月田辺朔朗・高木文平がデブロー氏と出会った場所です。デブロー氏は遙遠京都から訪れた二人の日本人に、開発したばかりの技術の全てを教えてくださいました。アメリカに着いてから、探すべき物に出会えず失望落胆していた二人は、やっとアスペンで見つけたのでした。長い旅の終わりにめぐり遇ったこの出会いが日本最初の水力発電に繋がったのです。その記念すべき建物は、今Art Museumとして甦り、芸術文化を伝える場所となっています。



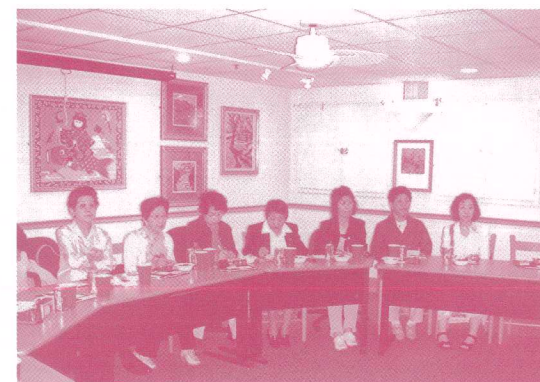
4. アスペン市長訪問と山田知事の親書手渡し

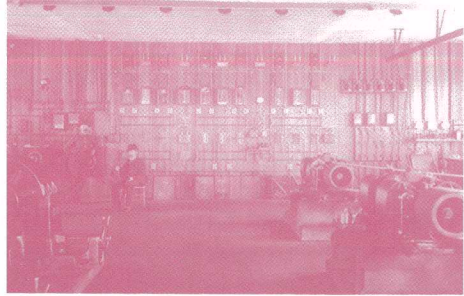
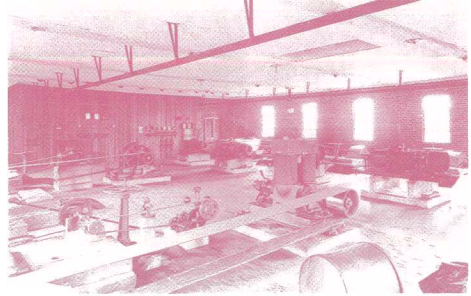
今回の訪問に際し、京都府の山田啓二知事の親書を預かり持参しました。市庁舎にヘレン・クランドル市長を表敬訪問し、親書を手渡しました。



5. 女性リーダーとの交流会

アスペン市では二代に亘って女性が市長です。この席にも現市長、前市長が出席され、市関係者のリーダーたちもすべて女性でした。今日の女性の社会進出の背景には、日米両国いずれにおいても女性の地位向上のための弛まぬ努力があることが分かりました。男女共同参画の社会を確立するには、共通する悩みや社会背景があることも話題となりました。また観光都市として、開発と抑制の問題に真剣に取り組んでいるという説明に感銘を受けました。忌憚のない質疑応答が活発に行われ意義深い交流会となりました。





6. Yellow Brick Daycare Program

この施設は、子育て支援を目的として、使用されていない学校の校舎を市が買い取り、1歳から5歳までの子供を預かっています。アメリカでは就学までの子供の支援を国としてはしていません。働く女性のために、この施設は大きな役割を果たしています。可愛い子供の笑顔が印象的でした。



8. 懇親会

アスペン最後の夜、懇親会が催されました。アスペン市の3代の市長と市の関係者数名が出席され、和やかな雰囲気楽しいひと時を過ごしました。京都からは、銘品和東茶を持参し、お点前が披露されました。お茶には水が大切です。アスペンの水は美味しく、お茶の渋みと苦味と甘味がよく調和し、和服の接待と共に大いに楽しんでいただきました。この心の繋がりが両市の今後の関係をより深めることを願いつつ、名残を惜しんだことでした。



9. 終わりに

アスペン市長からお礼状を頂きました。今回の訪問を大変喜んでくださいました。私たちが京都とアスペンを結ぶ歴史の繋がりをしっかりと体験することが出来ました。今回のアスペン市との交流により、観光を主産業とする二つの都市に共通する問題を考える機会を得たことも大きな収穫でした。

旅を終えた今、私たちは、アスペンと京都の繋がりを大切に、110余年前の三人の先達の動きに思いを馳せ、これを学びこれを活かし、これを次の世代に伝える責任を強く感じています。

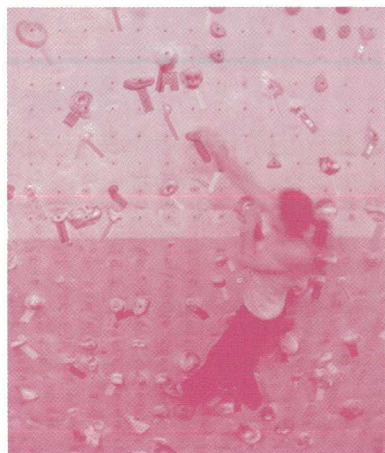
21世紀に生きる京都の女性として、京都議定書や水フォーラム開催のこの地から、温故知新の心を忘れず、水の文化の大切さを広く日本中へ、更に世界中へ発信して行きたいと思えます。

アメリカ・デンバーの日系新聞「コロラド事情」に今回のアスペン訪問の記事が写真入りで大きく取り上げられました。



7. 芸術家支援施設

文化と芸術を大切にするアスペンでは、芸術家が経済的な負担をせずに済むようにと市が所有する建物の一部を貸して制作活動をさせています。こうしたことが芸術家をアスペンに根付かせる要因の一つになっています。



主催団体 海外研修KYOのあけぼの会
京都商工会議所女性会

参加者 田中田鶴子 高橋 圭子
森 マリア 武田 公子
大橋 嬉子 永田 朝子
田淵 数江 松石三重子
一瀬 裕子 田中多賀子
奥野未知慧 高木 清子
磯部ミツ江 宇田川雄彦 (JTB)
鈴木 初子

KYOのあけぼのフェスティバルワークショップ (アスピンの旅 報告)

主 催 海外研修KYOのあけぼの会
京都府商工会議所女性会
日 時 平成17年10月15日(土)

■ DVD上映「アスピンの旅」

平成17年度6月7日～13日 私たちは、アメリカ、コロラド州アスペン市へ自主研修旅行を実施し、まとめることにいたしました。水がつなが京都とアスピンの歴史、交流の様子、さまざまな感動を参加者の写真と感想でまとめ、DVDに収めることができました。

その他資料本や写真パネル展示等、紹介もいたしました。

■ 講 演

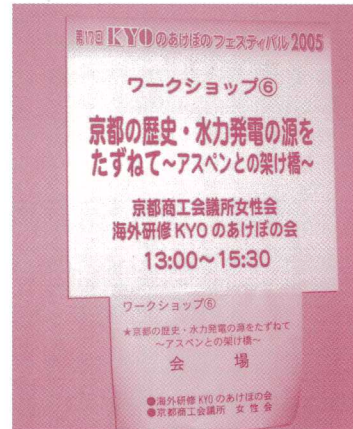
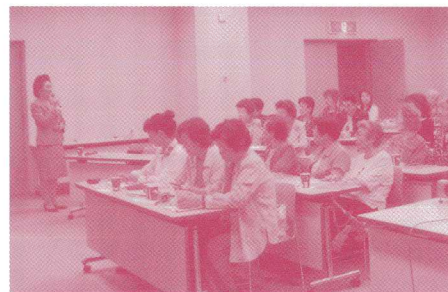
京都橘大学 教授 織田直文氏(水について)

「琵琶湖疏水から」と題して1回目(平成16年3月)につづき、第2回目として今回は「水について考える」と題して、課題と展望のお話でありました。



■ お土産体験

アスペンからの水やその他和東茶、美山銘水も味わっていただきました。



編 集 後 記

「水なくして生命なし、水なくして文化なし」
アウグスト・ティーネマンのことば

和やかな雰囲気の中でアスピンの水を使ってコーヒーやお茶でのお誘い、アスピンの旅のDVDの紹介等、あけぼのフェスティバルのワークショップは皆様喜んで下さいました。思い切った自主での海外研修から始まった大きなパワー。そこからの始まりでありましょう。

女性の感性、柔軟性、機動性がもっともっと生かせるのでは…。

心の若さで未来につながる何かを生み出そう！
そんな私達海外研修KYOのあけぼの会の「会員の和」を大切に。

一層の皆様の御活躍をご期待申し上げます。

発行責任者

(海外研修KYOのあけぼの会役員一同)